



熊本復興支援ボランティア<第1陣>活動記

2016年4月中旬に、九州地方において大きな地震が発生しました。2012年より東北でのボランティア活動等を行ってきた学生団体SVN(Sophia Volunteer Network)は、地震が発生したことを受け、新たな活動の柱として「ボラきゅう」を発足し、被害の大きかった熊本を中心とした復興支援活動を始めることとしました。8月3日(水)～8月5日(金)に、ボランティア・ビューロー職員に同行のうえ事前に視察を行い、今回、9月14日(水)～9月17日(金)の3泊4日で、視察した2名を含むSVNの4名が熊本へ赴き、ボランティア活動を行いました。

概要

期間:9月14日(水)～9月17日(土) 3泊4日間

活動場所:熊本県益城町

受入団体:益城町立広安西小学校

宿泊先:崇城大学ボランティアビレッジ



↑崖に崩れ落ちた家。この辺りは断層があり大半の建物が立入禁止となっている。



↑広安西小学校の吹奏楽部。最も被害の大きな益城町の学校だが、九州支部コンクールで銀賞を獲得し、子どもたちにも町の人々にも勇気となっている。

9月14日(水)【1日目】熊本市街や避難所等の視察

4日間の活動を全面的に支えてくださった、『なないろネットワーク』代表の方の案内により、市街地や熊本城、避難所を見学。建物や道路は崩れたままであり、避難所には今も200人もの被災者が暮らしていた。仮設住宅の提供は追いついておらず、更地化にするにも最低2年かかるが、仮設住宅の住居期限は2年。被害状況は立地等に左右されるため、人々の中の「格差」も大きい。復興までの道のりの陰しさを改めて実感した。

9月15日(木)～16日(金)【2-3日目】小学校にてボランティア

広安西小学校にて、主に1年生のクラスの補助や環境整備を行った。子どもたちは無邪気で元気いっぱいだった。しかし、給食センターが被災したことで、栄養バランスが良いとは思えない冷めたお弁当が給食であることや、登下校や放課後の遊び場も安心できないこと、言動の中に地震の影が見え、震災の影響を受けていると感じた。

9月17日(土)【4日目】行事開催の手伝い

老人ホームきほう苑が主催する「感謝祭」の手伝いを行った。きほう苑も天井が落ちる等の被害があったが、幸い地震が起きたのが夜中であったため、死傷者を出すことはなかった。「感謝祭」の会場設営や売り場、子どもブースの手伝いをし、様々な催しのなされるステージからは、地震を回想したり、被災から立ち向かうような言葉が聞こえてきた事が印象強かった。



↑子供支援を行った「広安西小学校」にて復興を願った桜の前で、I LOVE YOUサイン。(筆者・白石さん 右から2番目)

あとがき

熊本でボランティア活動を行ったSVNの4名は、被災した街並みや復興が進まない現状を目の当たりにし、言葉にならない感情にさらされたと話していました。彼女たちにできる活動は微量かもしれませんが、東京から支援に来てくれたということを喜ぶ方が大勢いたそうです。長期的な支援が必要ですが、今後も継続的な活動をし、一日も早い復興を願っています。

ボランティア・ビューローより 上智生の皆さんへ

10月7日(金)、10月13日(木)のお昼休みに『ボラCafé』を開催します！復興支援はもちろん、様々なボランティアについてざっくばらんに話せる場となっています。是非ご参加ください！(詳細はLoyolaにて)

上智大学ボランティア・ビューロー(ボランチ)

場所:2号館1階 学生センター⑧窓口

HP:<http://www.sophia.ac.jp/jpn/studentlife/svb>

Mail:VOLUNTEER@CL.SOPHIA.AC.JP

twitter: @SophiaVolante